

大黒島で繁殖するコシジロウミツバメの生態調査

筑波大学院 生命地球科学研究群

大島康平

～はじめに～

大黒島で繁殖するコシジロウミツバメの調査を行いました。コシジロウミツバメの個体数は世界的に減少しています。繁殖地の環境を整えることや、コシジロウミツバメがどのような場所で巣を作るかを理解することで、コシジロウミツバメの減少を防ぐことに繋がります。人工の巣箱を設置したり、コシジロウミツバメがどんな場所に多く巣穴を作るのかを調査しました。

～人工巣箱の設置～

コシジロウミツバメは地面に穴を掘って巣を作ります。雨や風などで崩れない人工の巣箱を設置することで、コシジロウミツバメの繁殖地での暮らしを守ります。また、人工巣箱を利用するコシジロウミツバメの調査を定期的に行うことで、自然になるべく負荷をかけずに生態調査を行うことができます。

今回の調査では、2021年に設置した人工巣箱の利用状況の確認と、新たに人工巣箱の設置を行いました。2021年に設置した人工巣のうち、いくつかの巣での繁殖が確認されました。また、繁殖は確認されませんでした。コシジロウミツバメが出入りした形跡のある巣もありました。定期的なメンテナンスを行うことで、コシジロウミツバメにとって居心地の良い繁殖地の整備を行っていきます。



～どんな場所で巣を作る？～

コシジロウミツバメは、どのような環境に好んで営巣しているのでしょうか。今回の調査では、繁殖地に生えている植物の違いや、繁殖地の特徴の違いによって、巣穴の数に差があるのかどうかを調査しました。その結果、イネ科植物やエゾヨモギが生えている場所で、巣の数が多いことがわかりました。また、土壌が柔らかく傾斜が急な場所ほど巣の数が増えることがわかりました。このような環境では、より繁殖に適している深い巣穴を掘ることができると考えられます。また、イネ科植物の根は、複雑な構造をしているため、巣穴が頑丈になる可能性があります。コシジロウミツバメはより深くて頑丈な巣穴を好むのかもしれませんが。

～大黒島で暮らす他の海鳥類～

大黒島には、コシジロウミツバメの他にも、さまざまな種類の海鳥が生息しています。今回の調査では、海上から海鳥類を観察しました。ウミネコやオオセグロカモメ、ウミウの繁殖が確認されました。近年では繁殖が確認されていないケイマフリやウミスズメの姿も観察されました。猛禽類であるオジロワシも観察され、これらの海鳥類に対する影響を評価するためには、今後詳しく調査する必要があります。

～今後の展望～

人工巣箱を利用する鳥は、その利用の手軽さや、繁殖地や鳥自身に与える影響が少ないことから、さまざまな調査に用いることができます。より多くのコシジロウミツバメが今回設置した人工巣を利用して、コシジロウミツバメの生態調査が活発に行われることが期待されます。

コシジロウミツバメがどんな環境に巣を作るのかが明らかになりました。この情報を取り入れた人工巣を作ったり、調査を行ったりすることで、コシジロウミツバメの保護につながると考えます。